



target carrier-id through timeout tsmax

- target carrier-id (3 ページ)
- target trunk-group-label (5 ページ)
- tbct clear call (6 ページ)
- tbct 最大 通話時間 (8 ページ)
- tbct max calls (10 ページ)
- tcp-retry (11 ページ)
- tdm-group (12 ページ)
- tech-prefix (14 ページ)
- tel-config to-hdr (16 ページ)
- telephony-service (18 ページ)
- 電話サービス CCM 互換 (H.323 音声クラス) (23 ページ)
- 電話サービス CCM 互換 (H.323 音声サービス) (25 ページ)
- test dsmp delete-stream (27 ページ)
- test voice mos-calc (28 ページ)
- テキストリレー変調 (29 ページ)
- テキストリレープロトコル (31 ページ)
- text relay rtp (33 ページ)
- TFTP サーバアドレス (35 ページ)
- tgrep address-family (36 ページ)
- tgrep advertise (dial peer) (37 ページ)
- tgrep advertise (trunk group) (39 ページ)
- tgrep local-itad (41 ページ)
- 閾値ノイズ (42 ページ)
- タイムアウト (自動構成アプリケーション) (43 ページ)
- timeout leg3 (44 ページ)
- timeout ptt (45 ページ)
- タイムアウト tcrit (46 ページ)
- タイムアウト tdinit (48 ページ)
- タイムアウト tdmx (50 ページ)
- タイムアウト tdmn (52 ページ)

- timeout thist (54 ページ)
- タイムアウト トーン 話し中 (56 ページ)
- タイムアウト トーン cot1 (57 ページ)
- タイムアウト トーン cot2 (59 ページ)
- タイムアウト トーン ダイヤル (61 ページ)
- タイムアウト トーン ダイヤル スタッター (62 ページ)
- タイムアウト トーン mwi (63 ページ)
- timeout tone network (64 ページ)
- timeout tone reorder (66 ページ)
- タイムアウト トーン リングバック (67 ページ)
- timeout tone ringback connection (68 ページ)
- タイムアウト トーン 呼び出し音 (69 ページ)
- タイムアウト トーン 呼び出し音 特徴的な (70 ページ)
- タイムアウト tpar (71 ページ)
- タイムアウト tsmx (73 ページ)

target carrier-id



- (注) この製品のマニュアルセットは、バイアスフリーの言語を使用するように努めています。このマニュアルセットの目的上、バイアスフリーとは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、および交差性に基づく差別を意味しない言語として定義されます。製品ソフトウェアのユーザインターフェイスでハードコードされている言語、RFP ドキュメントに基づいて使用される言語、または参照されているサードパーティ製品で使用される言語により、ドキュメントに例外が存在する場合があります。

ターゲット キャリア ID のデバッグ フィルタリングを設定するには、コール フィルター 一致リスト設定モードで **targetcarrier-id** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

targetcarrier-idstring
notargetcarrier-idstring

構文の説明

文字列	キャリア ID の英数字識別子。
-----	------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

通話 フィルター 一致リストの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、ターゲット キャリア ID 4321 と一致するように設定された音声通話デバッグ フィルターを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
target carrier-id 4321
```

関連コマンド

コマンド	description
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

コマンド	description
sourcecarrier-id	ソース キャリア ID のデバッグ フィルタリングを構成します。
sourcetrunk-group-label	ソース トランク グループのデバッグ フィルタリングを設定します。
targettrunk-group-label	対象の トランクグループのデバッグ フィルタリングを構成します。

target trunk-group-label

ターゲットトランクグループのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルター一致リスト設定モードで **targettrunk-group-label** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

targettrunk-group-label グループ番号

notargettrunk-group-label グループ番号

構文の説明

グループ番号	トランクグループを識別する 0～23 の値。
--------	------------------------

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンドモード

通話フィルター一致リストの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、ターゲットトランクグループ 21 に一致するように設定された音声通話デバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
target trunk-group-label 21
```

関連コマンド

コマンド	description
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチリストを表示します。
sourcecarrier-id	ソースキャリア ID のデバッグフィルタリングを構成します。
sourcetrunk-group-label	ソーストランクグループのデバッグフィルタリングを設定します。
targetcarrier-id	ターゲットキャリア ID のデバッグフィルタリングを構成します。

tbct clear call

1 つ以上のアクティブな 2 B チャンネル転送 (TBCT) コールの課金統計を終了するには、特権 EXEC モードで **tbctclearcall** コマンドを使用します。

tbctclearcall {**all** | *interface*[コールタグ]}

構文の説明	all	すべてのインターフェースでアクティブな TBCT 呼び出し。
インターフェイス	インターフェイス	指定されたインターフェース上のアクティブな TBCT 呼び出し。範囲はプラットフォームによって異なります。
呼び出し-タグ	呼び出し-タグ	(オプション) 固有の呼び出しタグ番号によって識別される、指定されたインターフェイス上の特定のアクティブな TBCT 呼び出し。範囲は 1 ~ 4,294,967,295 です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- たとえば、ISDN スイッチがダウンした場合などに、このコマンドを使用して特定のアクティブ コールまたはアクティブ コールのグループを手動でクリアします。スイッチに問題がない限り、このコマンドを使用して通話を手動でクリアする必要はありません。
- このコマンドは、何らかの理由でゲートウェイがスイッチから通話が終了したことを通知するメッセージを受信しなかった場合に、RADIUS サーバに送信されている課金情報を終了します。
- 指定された期間後に通話を自動的にクリアするには、**tbctmaxcall-duration** コマンドを使用します。
- このコマンドで使用する *interface* および *call -tag* 引数を決定するには、**showcallactivevoiceredirect** コマンドを使用します。

例

次の例では、T1 インターフェイス 6/0 上の通話をクリアします。

```
Router# tbct clear call T1-6/0
```

関連コマンド

コマンド	description
isdnsupp-servicetbct	PRI トランク上で ISDN TBCT を有効にします。
showcallactivevoiceredirect	RTPvt または TBCT を使用してリダイレクトされているアクティブな通話に関する情報を表示します。
tbctmaxcall-duration	TBCT を使用してリダイレクトされる通話に許可される最大期間を設定します。
tbctmaxcalls	TBCT を使用できるアクティブ通話の最大数を設定します。

tbct 最大 通話時間

2つのBチャンネル転送(TBCT)を使用してリダイレクトされる通話に許可される最大期間を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで**tbctmaxcall-duration** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの**no**形式を使用します。

tbctmaxcall-duration分
notbctmaxcall-duration

構文の説明

分	1回のTBCT通話に許可される最大時間(分)。範囲は1～9999で、5分単位の増分が推奨されます。デフォルトでは制限なしです。
---	---

コマンド デフォルト

制限なし

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- このコマンドを使用すると、たとえばPRIトランクがダウンした場合などに、古い通話を自動的にクリアできます。通話を手動でクリアするには、**tbctclearcall** コマンドを使用します。
- 通話時間は5分単位で設定することをお勧めします。



(注) このコマンドで設定された通話時間の制限は厳密には適用されません。このコマンドで指定された正確な分数が経過しても通話が終了しない場合があります。

例

次の例では、10分以上続くTBCT通話をクリアします。

```
tbct max call-duration 10
```

関連コマンド

コマンド	description
isdnsupp-servicetbct	PRIトランク上でISDN TBCTを有効にします。
showcallactivevoiceredirect	RTPvtまたはTBCTを使用してリダイレクトされているアクティブな通話に関する情報を表示します。

コマンド	description
tbctclearcall	1つ以上のアクティブなTBCT呼び出しの課金統計を終了します。
tbctmaxcalls	TBCT を使用できるアクティブ通話の最大数を設定します。

tbct max calls

2つのBチャンネル転送(TBCT)を使用できるアクティブコールの最大数を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで**tbctmaxcalls**コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの**no**形式を使用します。

tbctmaxcalls*number*
notbctmaxcalls

構文の説明	<i>number</i>	一度にTBCTを呼び出すことができる現在アクティブな呼び出しの最大数。範囲は1～1,000,00です。デフォルトでは制限なしです。
-------	---------------	---

コマンド デフォルト メモリリソースによって許可されている場合を除き、制限はありません

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、TBCT呼び出しによって消費されるメモリの量を制限し、ゲートウェイ上のメモリリソースを制御します。

例 次の例では、TBCTを使用した呼び出しの最大数を500に設定します。

```
tbct max calls 500
```

関連コマンド	コマンド	description
	isdnsupp-servicetbct	PRI トランク上で ISDN TBCT を有効にします。
	showcallactivevoiceredirect	RTPvt または TBCT を使用してリダイレクトされているアクティブな通話に関する情報を表示します。
	tbctclearcall	1つ以上のアクティブなTBCT呼び出しの課金統計を終了します。
	tbctmaxcall-duration	TBCTを使用してリダイレクトされる通話に許可される最大期間を設定します。

tcp-retry

SIP-TCP 接続からメッセージを送信するための再試行の最大回数を設定するには、SIP ユーザーエージェント設定モードで **tcp-retry** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tcp-retry {カウント **close-connection** | **nolimit**}
notcp-retry

構文の説明	カウント	カウント範囲は 100-2000 です。デフォルトの再試行回数は 200 です。
	close-connection	(オプション) 設定された再試行回数後に接続を閉じます。
	nolimit	再試行値は無制限に設定されています。

コマンドデフォルト TCP 再試行回数は 200 です。

コマンドモード SIP ユーザーエージェント構成 (config-sip-ua)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.6(1)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、SIP-TCP 接続からメッセージを送信する際に試行する最大回数を設定します。再試行回数が尽きると、その TCP 接続上の保留中のメッセージはすべて削除されます。**close-connection** キーワードを使用すると、TCP 接続が閉じられます。

例 次の例では、再試行の最大回数を 500 に設定します。

```
Router (config-sip-ua)# tcp-retry 500
```

次の例では、再試行の最大回数を 100 に設定し、再試行回数がすべて完了した後に接続を閉じるように構成します。

```
Router (config-sip-ua)# tcp-retry 100 close-connection
```

次の例は、メッセージが送信されるか接続が閉じられるまで、CUBE が無制限に再試行するように設定されていることを示しています。

```
Router (config-sip-ua)# tcp-retry nolimit
```

tdm-group

時分割多重 (TDM) クロスコネクットのクリア チャネル グループ (パススルー) を作成するためのタイムスロットのリストを設定するには、コントローラ コンフィギュレーション モードで **tdm-group** コマンドを使用します。クリア チャネル グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tdm-group *Tdm* グループ番号 **timeslot** *timeslot-list* [**type** {**em** | **fxs**[**loop-start** | **ground-start**] | **fxo**[**loop-start** | **ground-start**] | **fxs-melcas** | **fxo-melcas** | **e&m-melcas**}]

notdm-group *Tdm* グループ番号 **timeslot** *timeslot-list* [**type** {**em** | **fxs**[**loop-start** | **ground-start**] | **fxo**[**loop-start** | **ground-start**] | **fxs-melcas** | **fxo-melcas** | **e&m-melcas**}]

構文の説明

<i>tdm-group-no</i>	TDM グループ番号。
timeslot	時間帯番号。
タイムスロット-リスト	Time-slot リスト。 T1 の範囲は 1 ~ 24 です。 E1 の範囲は 1 ~ 15 および 17 ~ 31 です。
type	<p>(オプション) (mode cas コマンドが有効な場合にのみ有効です。) 音声ポートの音声信号タイプ。 データ トラフィック専用の TDM グループを設定する場合は、type キーワードを指定しないでください。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • e&m--E&M シグナリング • fxs--外線加入者局 (FXS) シグナリング (オプションで、ループスタートまたはグラウンドスタートも指定できます) • fxo--外線交換局 (FXO) シグナリング (オプションで、ループスタートまたはグラウンドスタートも指定できます) • fxs-melcas--外線加入者局 MEL CAS • fxo-melcas--外線交換局 MEL CAS • e&m-melcas--E&M Mercury Exchange Limited チャネル関連シグナリング (MEL CAS) <p>MELCAS オプションは E1 回線にのみ適用され、主に英国で使用されます。</p>

コマンド デフォルト TDM グループが構成されていません。

コマンド モード コントローラの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドは、Cisco MC38310 で導入されました。
12.1(1)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの音声 WAN インターフェイスカード (VWIC) を含めるように変更されました。
12.1(2)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズの OC-3/STM-1 ATM 回線エミュレーション サービス ネットワーク モジュール用に変更されました。

使用上のガイドライン

tdm-group コマンドを使用すると、特定のタイムスロットをポート 0 からポート 1 へ、またはその逆へ切り替えることができます。このコマンドは **channel-group** コマンドに似ていますが、指定されたチャンネルを終了するためのシリアルインターフェイスを作成しません。



- (注) チャンネルグループ、CAS 音声グループ、DS0 グループ、および TDM グループはすべてグループ番号を使用します。チャンネルグループ、CAS 音声グループ、DS0 グループ、および TDM グループに設定されたすべてのグループ番号は、ローカルルータ上で一意である必要があります。たとえば、チャンネルグループと TDM グループに同じグループ番号を使用することはできません。

例

次の例では、TDM グループ 1 にタイムスロット 13 ~ 20 を含めるように設定します。

```
controller T1 1
 tdm-group 1 timeslots 13-20
```

次の例では、コントローラ T1 1 上の TDM グループ番号 20 が、外線交換局 (FXO) グラウンドスタートをサポートするように構成します。

```
controller T1 1
 tdm-group 20 timeslot 20 type fxs ground-start
```

関連コマンド

コマンド	description
connect	クロスコネクタ TDM のポート間のデータの通過を開始します。

tech-prefix

特定のダイヤルピアの宛先パターンの先頭に特定のテクノロジープレフィックスを追加するように指定するには、ダイヤルピア設定モードで **tech-prefix** コマンドを使用します。このダイヤルピアの定義済みテクノロジープレフィックスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tech-prefixnumber
notech-prefix

構文の説明	<i>number</i> テクノロジーのプレフィックスとして使用される番号を定義します。各テクノロジープレフィックスには最大 11 文字を含めることができます。厳密には必要ではありませんが、テクノロジープレフィックスの最後の文字として、ポンド(#)記号が頻繁に使用されます。有効な文字は 0～9、ポンド記号(#)、およびアスタリスク(*)です。
-------	---

コマンド デフォルト テクノロジープレフィックスが定義されていません。

コマンド モード
ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更
	11.3(6)NA2	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズで導入されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン テクノロジープレフィックスは、特定のゾーン内で特定の機能を持つゲートウェイを区別するために使用されます。ゲートウェイとゲートキーパー間の交換では、ゾーンの選択後にテクノロジープレフィックスを使用してゲートウェイが選択されます。テクノロジーのプレフィックスを定義するには、**tech-prefix** コマンドを使用します。

テクノロジープレフィックスは識別子として使用できるため、ゲートウェイはゲートキーパーに対して、特定のテクノロジーが特定の通話に関連付けられていることを通知できます(たとえば、15# は FAX 送信を意味します)。また、テクノロジープレフィックスは、より一般的なルーティングのために市外局番のように使用できます。テクノロジープレフィックス内の数字の意味を定義する標準はありません。慣例により、テクノロジープレフィックスは最後の文字としてポンド記号(#)で指定されます。

ほとんどの場合、ゲートウェイとゲートキーパーの間では動的なプロトコル交換が行われ、ゲートウェイはテクノロジープレフィックスと通話の転送先をゲートキーパーに通知できるようになります。何らかの理由で動的レジストリ機能が有効になっていない場合は、ゲートキーパーで **gw-type-prefix** コマンドを設定することで、ゲートキーパーがゲートウェイにこの情報を照会するように静的に構成できます。ゲートキーパーがテクノロジープレフィックスをロー

カルゲートウェイにどのようにマッピングしたかを表示するには、**showgatekeepergw-type-prefix** コマンドを使用します。



- (注) Cisco ゲートキーパーでは、アスタリスク (*) を予約文字として使用します。Cisco ゲートキーパーを使用している場合は、テクノロジープレフィックスの一部としてアスタリスクを使用しないでください。

例

次の例では、指定されたダイヤルピアのテクノロジープレフィックス 14# を定義します。この例では、テクノロジープレフィックスは、H.323 ゲートウェイが RAS ゲートキーパーにテクノロジープレフィックス 14# を使用して通話を転送するように要求することを意味します。

```
dial-peer voice 10 voip
 destination-pattern 14...
 tech-prefix 14#
```

関連コマンド

コマンド	description
gw-type-prefix	ゲートキーパーのテクノロジープレフィックスを設定します。
showgatekeepergw-type-prefix	ゲートウェイ テクノロジープレフィックス テーブルを表示します。

tel-config to-hdr

VoIP Session Initiation Protocol (SIP) 通話の To: Header (to hdr) Request URI to telephone (TEL) 形式を構成するには、SIP 構成モードまたは voice class tenant 構成モードで、**tel-configto-hdr** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tel-configto-hdr[phone-context] [system]
notel-configto-hdr

構文の説明	
	phone-context (オプション) 電話コンテキスト パラメータを TEL URL に追加します。
	system (オプション) To: Header (to hdr) Request URI to telephone (TEL) 形式に変換するためにグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト To: ヘッダー要求行 URI が電話形式に設定されていません。

コマンド モード SIP 構成 (conf-serv-sip)
 Voice class tenant configuration (config-class)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
	15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。
	15.6(2)T および IOS XE Denali 16.3.1	このコマンドは、キーワード system を含むように修正されました。This command is now available under voice class tenants.

使用上のガイドライン **voice-classtel-configto-hdr** コマンドは、SIP 構成モードで構成された **tel-configto-hdr** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-classtel-configto-hdr** コマンドが **system** キーワードを使用して設定されている場合、ゲートウェイは **tel-configto-hdr** コマンドによって設定されたグローバル設定を使用します。

例に示すように、voice service VoIP 構成モードを開始した後、SIP 構成モードを開始します。

例

次の例では、To: ヘッダーを TEL 形式で設定し、ヘッダーに phone-context パラメータを追加します。

```
voice service voip
sip
tel-config to-hdr phone-context
```

次の例では、音声クラス テナント設定モードで TEL 形式の To: ヘッダーを設定します。

```
Router(config-class)# tel-config to-hdr system
```

関連コマンド

コマンド	description
sip	voice service VoIP 構成モードから SIP 構成モードを開始します。
voice-classtel-configto-hdr	ダイヤルピア VoIP SIP 通話の To: ヘッダー要求 URI を電話形式に設定します。

telephony-service

telephony-service 構成モードで、Cisco Unified CME を構成するには、global 構成モードで **telephony-service** コマンドを使用します。SCCP IP 電話の Cisco Unified CME 設定全体を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

telephony-service[setup]
notelephony-service

構文の説明	<p>setup (オプション) Cisco Unified CME で Cisco Unified IP Phone 7910、7940、および 7960 を設定するための対話型セットアップ ツール。</p> <p>(注) この対話型 Cisco CME セットアップ ツールは、SCCP プロトコルを実行する Cisco Unified IP Phone 7910、7940、および 7960 の基本設定ファイルの生成のみに制限されています。</p>
-------	--

コマンド デフォルト SCCP IP 電話用の Cisco Unified CME 設定が存在しません。

コマンド モード
グローバル構成 (config)

コマンド履歴	Cisco IOS リリース	シスコ製品	変更
	12.1(5)YD	Cisco ITS 1.0	このコマンドが導入されました。
	12.2(8)T	Cisco ITS 2.0	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
	12.2(15)ZJ	Cisco CME 3.0	setup キーワードが追加されました。
	12.3(4)T	Cisco CME 3.0	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(4)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco Unified CME の SCCP IP 電話のシステム全体のパラメータを設定するためのテレフォニー サービス コンフィギュレーション モードに入ります。



(注) voice-gateway システムは、電話サービスに関連付けられています。 **telephony-service** コマンドは、音声ゲートウェイシステムを設定する前に設定する必要があります。そうしないと、音声ゲートウェイがユーザに対して非表示になります。

setup キーワードを使用して対話型セットアップ ツールを起動し、Cisco Unified CME で Cisco Unified IP Phone 7910、7940、および 7960 のみを自動的に設定します。

Cisco Unified IP Phone 7910、7940、7960 およびその他の Cisco Unified IP Phones をはじめとする Cisco Unified CME の自動構成の代替方法については、『Cisco Unified CME 管理者ガイド』を参照してください。

setup キーワードはルーターの不揮発性ランダムアクセスメモリ (NVRAM) に保存されません。

すでにテレフォニー サービス構成を持つシステムに対して **setup** オプションを使用しようとすると、コマンドは拒否されます。既存のテレフォニー サービス構成が作成された後に **setup** オプションを使用するには、まず **notelephony-service** コマンドを使用して既存の構成を削除します。

次の表は、Cisco CME セットアップ ツールのサンプル ダイアログを示し、Cisco CME セットアップ ツールのプロンプトに対する可能な応答について説明します。

表 1: Cisco CME セットアップ ツールのダイアログ プロンプト

Cisco CME セットアップ ツール プロンプト	description
Do you want to setup DHCP service for your IP phones? [yes/no]: 「はい」と応答すると、次のプロンプトが表示されます。 IP network for telephony-service DHCP Pool: Subnet mask for DHCP network : TFTP Server IP address (Option 150) : Default Router for DHCP Pool :	<ul style="list-style-type: none"> • はい - Cisco Unified CME ルータを Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバーとして機能するように耕世江し、IP Phone に IP アドレスを自動的に指定し、電話機で使用するデフォルト ゲートウェイと TFTP IP アドレスを指定します。この方法では、IP アドレスのプールが 1 つ作成されます。IP 以外の電話用のプールが必要な場合、または Cisco ルータが DHCP ルータとして機能できない場合は、「いいえ」と答えて、DHCP サーバを手動で定義します。 • いいえ - IP 電話に DHCP または静的 IP アドレスがすでに設定されていることを示します。
Do you want to start telephony-service setup? [yes/no]:	<ul style="list-style-type: none"> • Yes--Cisco Unified IP Phone 7910、7940、および 7960 を設定するための対話型セットアップ ツールを起動します。 • No--Cisco CME セットアップ ツールを終了します。
Enter the IP source address for Cisco CallManager Express: Enter the Skinny Port for Cisco CallManager Express: [2000]:	ルータが Cisco Unified CME サービスを提供する IP アドレス。通常は、IP 電話に使用している IP サブネットのデフォルト ゲートウェイと、Skinny Client Control Protocol (SCCP) メッセージのポートです。

Cisco CME セットアップツール プロンプト	description
How many IP phones do you want to configure : [0]:	<p>この Cisco Unified CME システムがサポートする IP 電話の最大数を入力します。この数値は、後でこのバージョンとルーターに許可されている最大値まで増やすことができます。</p> <p>(注) Cisco CME セットアップツールは、新しく登録された電話機ごとに 1 つの番号を関連付けます。後で、電話機に追加の番号を手動で設定できます。</p>
Do you want dual-line extensions assigned to phones? [yes for dual-line / no for single-line]:	<ul style="list-style-type: none"> • Yes--新しく登録された各 IP 電話には、1 つの電話ボタンに関連付けられた 1 つの番号が割り当てられます。システムは、各 ephone-dn に対してデュアルライン ephone-dn エントリを生成します。 • No--IP 電話は 1 つ以上の PSTN トランクラインに直接リンクされます。キースイッチモードを使用するには、Cisco CME セットアップツールの使用に加えて、手動での設定が必要です。システムは各 ephone-dn に対して 2 つの ephone-dn エントリを生成し、それらは両方とも 1 台の電話機に割り当てられます。
What language do you want on IP phones? 0 English 1 French 2 German 3 Russian 4 Spanish 5 Italian 6 Dutch 7 Norwegian 8 Portuguese 9 Danish 10 Swedish [0]:	<p>リストから選択した IP 電話の表示言語。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デフォルト値は 0 (英語) です。

Cisco CME セットアップ ツール プロンプト	description
<pre>Which Call Progress tone set do you want on IP phones : 0 United States 1 France 2 Germany 3 Russia 4 Spain 5 Italy 6 Netherlands 7 Norway 8 Portugal 9 UK 10 Denmark 11 Switzerland 12 Sweden 13 Austria 14 Canada [0]:</pre>	<p>通話ステータスまたは進行状況を示すために使用される トーンセットのロケール (リストから選択)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デフォルト値は 0 (米国) です。
<pre>What is the first extension number you want to configure :[0]:</pre>	<p>設定する Cisco ルータに接続された IP 電話用に作成される 内線番号のプール内の最初の番号。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この番号から始まり、残りの内線番号は連続して自動的に設定されます。 • この番号は、電話番号プランと互換性がある必要があり、また、Direct Inward Dialing (DID) サービスを使用する場合は、公衆交換電話網 (PSTN) の番号要件とも互換性がある必要があります。
<pre>Do you have Direct-Inward-Dial service for all your phones? [yes/no]:</pre>	<ul style="list-style-type: none"> • はい - すべての内線番号に ISDN または VoIP による公衆電話サービスへのトランクアクセスがある場合。システムは適切なダイヤルプランを作成します。 • いいえ - 単純なアナログ電話回線のみを使用している場合 (たとえば、外線交換局 [FXO] インターフェイス)、またはすべての回線ではなく、一部の回線にトランクアクセスがある場合。
<pre>前の質問に「はい」と答えると、 次のプロンプトが表示されます。 Enter the full E.164 number for the first phone:</pre>	<p>最初の内線番号に対応する、市外局番を含む 10 桁の電話番号を入力します。</p>

Cisco CME セットアップツールプロンプト	description
Do you want to forward calls to a voice message service? [yes/no]:	<ul style="list-style-type: none"> • はい - IP 電話が話し中または応答しない場合に、通話を単一の音声メッセージサービス番号に転送します。すべての内線電話は、同じ音声メッセージサービスパイロット番号に通話を転送します。 • いいえ - 通話を単一の音声メッセージサービス番号に転送しないようにします。音声メッセージシステムがない場合、または内線ごとに転送動作をカスタマイズする場合は、「いいえ」と回答します。
<p>前の質問に「はい」と答えると、次のプロンプトが表示されます。</p> <p>Enter the extension or pilot number of the voice message service:</p>	<p>音声メッセージサービスのパイロット番号。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この手順はセットアップダイアログでは無視して、後で手動で構成することができます。
Call forward No Answer Timeout: [18]:	<p>応答がない場合に通話をボイスメールに転送するまでのタイムアウト (秒単位)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デフォルト値は 18 です。
Do you wish to change any of the above information? [yes/no]:	<ul style="list-style-type: none"> • Yes-- 以前に入力した回答を一切実行せずに、ダイアログを再度開始します。 • No-- 指定された値を使用して、Cisco Unified CME 内の Cisco Unified IP Phone 7910、7940、および 7960 の基本設定を自動的に構築します。

例

次の例は、Cisco Unified CME を手動で設定するためのテレフォニーサービス設定モードに入る方法を示しています。この例では、電話機の最大数を 12 に設定しています。

```
Router(config)# telephony-service
Router(config-telephony)# max-ephones 12
```

次の例は、Cisco CME セットアップツールを起動する方法を示しています。

```
Router(config)# telephony-service setup
```

電話サービス CCM 互換 (H.323 音声クラス)

個々のダイヤルピアに対して、ネットワーク内の Cisco CallManager システムの検出を有効にし、通話の交換を許可するには、音声クラス設定モードで **telephony-serviceccm-compatible** コマンドを使用します。個々のダイヤルピアでの検出機能と通話の交換を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

telephony-serviceccm-compatible
no telephony-serviceccm-compatible

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンドデフォルト

Cisco CallManager システムの検出が有効になっています。

コマンドモード

Voice-class configuration

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(7)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco CallManager Express (Cisco CME) 3.1 以降のバージョンで使用されます。

このコマンドを含む音声クラスをダイヤルピアに適用すると、このコマンドにより、そのダイヤルピアからのすべての通話の検出と Cisco CallManager との通話交換が可能になります。この機能をグローバルに適用するには、H.323 音声サービス設定モードで

telephony-serviceccm-compatible コマンドを使用して音声クラスを作成します。機能がグローバルレベルとダイヤルピアレベルの両方で指定されている場合、そのダイヤルピアではダイヤルピア設定が優先されます。

例

次の例では、ネットワーク内の Cisco CallManager システムの検出をグローバルに有効にし、音声クラス 4 を作成して個々のダイヤルピアの機能を無効にし、音声クラス 4 をダイヤルピア 36 に適用します。この条件はデフォルトであるため、H.323 音声サービス設定モードでの **telephony-serviceccm-compatible** コマンドは必要ありませんが、説明のためにコマンドがここに示されています。

```
Router(config)# voice service voip
Router(config-voi-serv)# h323
Router(conf-serv-h323)# telephony-service ccm-compatible
Router(conf-serv-h323)# exit
Router(config-voi-serv)# exit
Router(config)# voice class h323 4
Router(config-class)# notelephony-service ccm-compatible
Router(config-class)# exit
Router(config)# dial-peer voice 36 voip
Router(config-dial-peer)# destination-pattern 555....
```

```
Router(config-dial-peer)# session target ipv4:10.5.6.7
```

```
Router(config-dial-peer)# voice-class h323 4
```

関連コマンド

コマンド	description
telephony-serviceccm-compatible(H.323voice-service)	すべてのダイヤルピアに対して、ネットワーク内の Cisco CallManager の検出をグローバルに有効にします。
voiceclassh323	ダイヤルピアに適用する H.323 音声クラスを作成します。
voice-classh323	ダイヤルピアに H.323 音声クラスを適用します。

電話サービス CCM 互換 (H.323 音声サービス)

ネットワーク内の Cisco CallManager システムの検出をグローバルに有効にして、通話の交換を許可するには、H.323 音声サービス設定モードで **telephony-serviceccm-compatible** コマンドを使用します。検出機能と通話の交換をグローバルに無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

telephony-serviceccm-compatible
no telephony-serviceccm-compatible

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンドデフォルト

Cisco CallManager システムの検出が有効になっています。

コマンドモード

H.323 音声サービス構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(7)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco CallManager Express (Cisco CME) 3.1 以降のバージョンで使用されます。

このコマンドは、このルータからのすべての通話に対して、Cisco CallManager との通話交換をグローバルに有効にします。この機能を個々のダイヤルピアに適用するには、音声クラス設定モードで **telephony-serviceccm-compatible** コマンドを使用して音声クラスを作成します。機能がグローバル レベルとダイヤルピア レベルの両方で指定されている場合、そのダイヤルピアではダイヤルピア設定が優先されます。

例

次の例では、ネットワーク内の Cisco CallManager システムの検出をグローバルに有効にし、音声クラス 4 を作成して個々のダイヤルピアの機能を無効にし、音声クラス 4 をダイヤルピア 36 に適用します。この条件はデフォルトであるため、H.323 音声サービス設定モードでの **telephony-serviceccm-compatible** コマンドは必要ありませんが、説明のためにコマンドがここに示されています。

```
Router(config)# voice service voip
Router(config-voi-serv)# h323
Router(conf-serv-h323)# telephony-service ccm-compatible
Router(conf-serv-h323)# exit
Router(config-voi-serv)# exit
Router(config)# voice class h323 4
Router(config-class)# notelephony-service ccm-compatible
Router(config-class)# exit
Router(config)# dial-peer voice 36 voip
Router(config-dial-peer)# destination-pattern 555....
Router(config-dial-peer)# session target ipv4:10.5.6.7
```

```
Router(config-dial-peer)# voice-class h323 4
```

関連コマンド

コマンド	description
h323	H.323 音声サービス設定モードに入ります。
telephony-serviceccm-compatible(H.323voice-class)	個々のダイヤルピアによるネットワーク内の Cisco CallManager 検出を有効にします。
voicesservicevoip	音声サービス設定モードに入ります。

test dsmp delete-stream

ハングしたままクリアされていない1つ以上の非アクティブな Distributed Stream Media Processor (DSMP) メディア ストリーム セッションをクリアするには、特権 EXEC モードで **testdsmpdelete-stream** コマンドを使用します。

testdsmpdelete-stream ストリーム *ID*

構文の説明	ストリーム <i>ID</i>	ハングしており削除する必要がある具体的なストリーム ID。
-------	-----------------	-------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	15.4(3)M	このコマンドが導入されました。

例

次の例は音声を示しています。

```
Router #test dsmp delete-stream 7973
test_dsmp: id is 7973
% Stream 7973 does not exist
```

test voice mos-calc

会話品質の平均オピニオンスコア (MOS) やパケット損失率など、メディア (音声) 品質関連の MOS を計算する音声品質評価をテストサーバーするには、privileged EXEC モードで、**testvoice mos-calc** コマンドを使用します。

testvoice mos-calc パケットロス *RTT* *Jitter*

構文の説明	パケットロス	パケット損失をパーセンテージで入力します。範囲は 0 から 100 です。
	<i>RTT</i>	ラウンドトリップ時間をミリ秒単位で入力します (範囲: 0 - 5000)。
	ジッター	WAN 内のスイッチによって発生するジッター値をミリ秒単位で入力します (範囲: 0 ~ 2000)。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	Cisco IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、音声を示しています。

```
Router#test voice mos-calc ?
  <0-100> Packet Loss in percentage

Router#test voice mos-calc 5 ?
  <0-5000> RTT in milliseconds

Router#test voice mos-calc 5 16 ?
  <0-2000> Jitter in milliseconds

Router#test voice mos-calc 5 16 6 ?
  Mean Opinion Score= 3.7841
  <cr>
```

テキストリレー変調

ゲートウェイで使用される Baudot テキストフォン用の Cisco テキストリレーのテレタイプテキストフォン (TTY) 変調を設定するには、ダイヤルピア音声構成モードまたは `voice service configuration` モードで、`textrelaymodulation` コマンドを使用します。テキストリレー変調を無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

textrelaymodulation {baudot45.45 | baudot50} {autobaud-on | autobaud-off}
notextrelaymodulation

構文の説明	
baudot45.45	ボーレート 45.45 TTY 変調を設定します。これはデフォルトのボーレートです。
baudot50	Baudot 50 TTY 変調を設定します。
autobaud-on	デジタル信号プロセッサ (DSP) がボーレートを自動検出できるようにします。これはデフォルトのオートボー設定です。
autobaud-off	ボーレートを自動検出する DSP 機能を無効にします。

コマンド デフォルト TTY 変調は `baudot45.45autobaud-on` です。

コマンド モード dial peer voice 構成モード Voice service 構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(6)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ボーレートを選択し、DSP の自動ボーレート機能を有効または無効にする必要があります。音声サービス設定モードでこのコマンドを使用して、TTY 変調をグローバルに設定します。グローバル構成は、ゲートウェイ上のすべての VoIP 通話に適用されるシステム全体の構成です。

ダイヤルピア音声設定モードでこのコマンドを使用して、特定のダイヤルピアに一致する通話の TTY 変調を設定します。ダイヤルピア音声設定はグローバル設定よりも優先されます。

例 次の例は、テキストリレー TTY 変調を Baudot 50 にグローバルに設定する方法を示しています。

```
Router(config)# voice service voip
Router(config-voi-serv)# text relay modulation baudot50 autobaud-off
```

次の例は、特定のダイヤルピアに一致する通話に対してテキストリレー TTY 変調を Baudot 50 に設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 2000 voip
Router(config-dial-peer)# text relay modulation baudot50 autobaud-off
```

関連コマンド

コマンド	description
textrelayprotocol	ゲートウェイ間で送信されるテキストパケットのシステム全体のプロトコルタイプを構成します。
textrelayrtp	RTP ペイロードタイプと冗長レベルを設定します。

テキストリレープロトコル

Baudot テキスト フォン用の Cisco テキスト リレーを有効にするには、ダイヤル ピア音声設定モードまたは音声サービス設定モードで **textrelayprotocol** コマンドを使用します。テキストリレー機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

textrelayprotocol[cisco | system]
notextrelayprotocol

構文の説明	cisco	(オプション) Cisco 独自のテキストリレー プロトコルを使用します。
	system	(オプション、ダイヤルピア音声設定のみ) グローバル設定を使用します。

コマンドデフォルト テキストリレープロトコルが無効になっています。

コマンドモード ダイヤルピア構成と音声サービス構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(6)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 音声サービス設定モードでこのコマンドを使用して、H.323、セッション開始プロトコル(SIP)、スキニークライアントコントロールプロトコル(SCCP)、およびメディアゲートウェイコントロールプロトコル(MGCP)のテキストリレーをグローバルに有効にします。グローバル構成は、ゲートウェイ上のすべての VoIP 通話に適用されるシステム全体の構成です。

特定のダイヤルピアに一致する通話のテキストリレーを有効にするには、ダイヤルピア音声設定モードでこのコマンドを使用します。ダイヤルピア音声設定はグローバル設定よりも優先されます。

例

次の例は、ゲートウェイ上のすべての VoIP 通話に対してテキストリレーを有効にする方法を示しています。

```
Router(config)# voice service voip
Router(config-voi-serv)# text relay protocol cisco
```

次の例は、特定のダイヤルピアに一致する通話に対してテキストリレーを有効にする方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 2000 voip
Router(config-dial-peer)# text relay protocol cisco
```

関連コマンド

コマンド	description
textrelaymodulation	ゲートウェイの TTY 変調を設定します。
textrelayrtp	RTP ペイロードタイプと冗長レベルを設定します。

text relay rtp

Baudot テキスト電話用 Cisco テキストリレーの Real-Time Transport Protocol (RTP) ペイロードタイプと冗長レベルを設定するには、ダイヤルピア音声設定モードまたは音声サービス設定モードで **textrelairtp** コマンドを使用します。テキストリレー RTP ペイロードタイプと冗長レベルを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

textrelairtp {[payload-type {値 | default}][redundancy レベル] | redundancy レベル}
notextrelairtp

構文の説明	payload-type {値 /default}	RTP ペイロードは、パケット内で RTP によって転送されるデータです。 <ul style="list-style-type: none"> 動的 RTP ペイロードタイプの場合、値の範囲は 98 ~ 117 です。 default 値は 119 で、静的ペイロードタイプです。
	冗長性レベル	冗長性オプションを使用してデータを繰り返し、冗長性を確保し、パケット損失のリスクを低減します。冗長レベルは、VoIP ネットワークを介して送信される冗長テキストパケットの数です。範囲は 1 ~ 3 です。デフォルト値は 2 です。

コマンドデフォルト テキストリレー RTP は無効です。

コマンドモード dial peer voice 構成モード Voice service 構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(6)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **textrelairtp** コマンドを使用する場合、**payload-type**、冗長性レベル、またはその両方を設定できます。

- voice service 構成モードでこのコマンドを使用すると、H.323、Session Initiation Protocol (SIP)、Skinny Client Control Protocol (SCCP)、Media Gateway Control Protocol (MGCP) に対して、RTP ペイロードタイプと冗長レベルをグローバルに設定できます。グローバル構成は、ゲートウェイ上のすべての VoIP 通話に適用されるシステム全体の構成です。
- dial peer 構成モードでこのコマンドを使用すると、具体的なダイヤルピアと一致する通話の RTP ペイロードタイプと冗長レベルを設定できます。ダイヤルピア音声設定はグローバル設定よりも優先されます。

例

次の例は、テキストリレー RTP ペイロードタイプ 117 と冗長レベル 2 をグローバルに設定する方法を示しています。

```
Router(config)# voice service voip
Router(config-voi-serv)# text relay rtp payload-type 117 redundancy 2
```

次の例は、特定のダイヤルピアに一致する通話に対してデフォルトのテキストリレー RTP ペイロードタイプと冗長レベル 1 を設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 2000 voip
Router(config-dial-peer)# text relay rtp payload-type default redundancy 1
```

関連コマンド

コマンド	description
textrelaymodulation	ゲートウェイの TTY 変調を設定します。
textrelayprotocol	ゲートウェイ間で送信されるテキストパケットのシステム全体のプロトコルタイプを構成します。

TFTP サーバアドレス

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) クラスタ内の TFTP サーバのアドレスを指定するには、電話プロキシ設定モードで **tftp-server address** コマンドを使用します。電話プロキシ設定から TFTP サーバのアドレスを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

tftp-server address[**ipv4** *server-ip-address* | *domain-name*]**local-addr** **ipv4**ローカル IP アドレス
acc-addr **ipv4**アクセス IP アドレス

no tftp-server address[**ipv4** *server-ip-address* | *domain-name*]**local-addr** **ipv4**ローカル IP アドレス
acc-addr **ipv4**アクセス IP アドレス]

構文の説明	ドメイン名	TFTP サーバのドメイン名。
	local-addr ipv4 ローカル IP アドレス	コア側サーバに接続するためのローカルインターフェイス IPv4 アドレスを指定します。
	acc-addr ipv4 アクセス IP アドレス	アクセス側のローカルインターフェイス IPv4 アドレスを指定します。

コマンド デフォルト TFTP サーバのアドレスが指定されていません。

コマンド モード 電話プロキシ コンフィギュレーション モード (config-phone-proxy)

コマンド履歴 リリー 変更
ス

15.3(3)M このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

例

次の例は、**phone proxy** 構成向けに TFTP サーバアドレスを指定するコマンドの実行方法を示しています。

```
Device(config)# voice-phone-proxy first-pp
Device(config-phone-proxy)# tftp-server address ipv4 198.51.100.101 local-addr ipv4
192.168.0.109 acc-addr 198.51.100.1
```

tgrep address-family

ローカルダイヤルピアで使用するアドレスファミリーを設定するには、ダイヤルピア設定モードで `tgrep address-family` コマンドを使用します。グローバル設定に戻るには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
tgrepaddressfamily {e164 | decimal | penta-decimal}
notgrepaddressfamily {e164 | decimal | penta-decimal}
```

構文の説明		
	e164	E.164 アドレスファミリー。
	decimal	10 進アドレスファミリー
	penta-decimal	15 進数アドレスファミリー

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 電話ネットワークが公衆電話ネットワークである場合は、E.164 アドレスファミリーが使用されます。10 進数および 15 進数のオプションを使用して、プライベートダイヤルプランをアドバタイズできます。たとえば、企業が 5 桁の内線番号を使用して企業テレフォニー ネットワーク内で TRIP を使用する場合、ゲートウェイはプライベート番号の最初の数字を 10 進アドレスファミリーとしてアドバタイズします。これらの通話は E.164 に準拠していないため、会社のプライベート電話ネットワークから送信することはできません。

15 進数ファミリーでは、0 から 9 までの数字と A から E までのアルファベット文字が使用可能で、着信番号に文字が含まれる国でも使用できます。

例

次の例は、POTS ダイヤルピア 10 に E.164 アドレス用のアドレスファミリーが設定されていることを示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice pots 10
Router(config-dial-peer)# tgrep address family e164
```

関連コマンド	コマンド	description
	dial-peer voice	ダイヤルピア設定モードを開始し、音声関連のカプセル化の方法を指定します。

tgrep advertise (dial peer)

このダイヤルピアのプレフィックスのアドバタイズメントの属性を設定するか、このダイヤルピアのアドバタイズメントを完全に無効にするには、`dial peer` 構成モードで、`tgrep advertise` コマンドを使用します。グローバル設定の使用に戻すには、このコマンドの、`no` 形式を使用します。

```
tgrepadvertise[csr][ac][tc][carrier | trunk-group][disable]
notgrepadvertise[csr][ac][tc][carrier | trunk-group][disable]
```

構文の説明

csr	通話成功率。
ac	利用可能な回路。
tc	合計回路数。
carrier	Carrier-code アドレスファミリ。
trunk-group	trunk-group アドレスファミリ。
disable	このダイヤルピアのアドバタイズを無効にします。

コマンドデフォルト

プレフィックス アドバタイズメントは送信されません。

コマンドモード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

`Tgrep advertise` のみを入力すると、ダイヤルピアは他の属性なしでアドバタイズされます。

ダイヤルピアで `tgrep advertise` が使用されていない場合、ダイヤルピアはグローバル `advertise` コマンドで設定された属性を継承します。

グローバル `no advertise` コマンドを使用すると、特定のアドレスファミリのアドバタイズメントが完全に禁止されます。アドレスファミリのアドバタイズがグローバルに有効になるまで、このコマンドは効果がありません。 **tgrepadvertise**

例

次の例は、コール成功率、使用可能な回線、合計回線数、および通信事業者アドレスファミリ属性情報を送信する `TGPREP` アドバタイズメントを示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice pots 10
Router(config-dial-peer)# tgrep advertise csr ac tc carrier
```

関連コマンド

コマンド	description
dial-peervoice	ダイヤルピア設定モードを開始し、音声関連のカプセル化の方法を指定します。

tgrep advertise (trunk group)

リソースの可用性やその他のキャリア情報についてこのトランクグループのアドバタイズをオンにするには、トランクグループ設定モードで **tgrep advertise** コマンドを使用します。ローカルトランクグループのアドバタイズをオフにしてグローバル設定を使用するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tgrepadvertise[csr][ac][tc][disable]
notgrepadvertise[csr][ac][tc][disable]

構文の説明

csr	通話成功率。
ac	利用可能な回路。
tc	合計回路数。
無効化	トランクグループでのアドバタイズを無効にします。

コマンドデフォルト

トランクグループのアドバタイズは送信されません。

コマンドモード

トランクグループ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Tgrep advertise のみを入力すると、トランクグループは他の属性なしでアドバタイズされます。**Tgrep advertise** が使用されていない場合、トランクグループは **TGREP** 設定モードで **advertise** コマンドを使用して設定されたグローバル設定を使用します。このトランクグループのアドバタイズをオフにするには、**disable** キーワードを使用する必要があります。

このコマンドの **no** 形式とグローバルアドバタイズコマンドの **no** 形式には微妙な違いがあります。トランクグループで **tgrep advertise** が使用されていない場合、トランクグループはグローバル **advertise** コマンドで設定された属性を継承します。

グローバル **no advertise** コマンドを使用すると、特定のアドレスファミリのアドバタイズメントが完全に禁止されます。アドレスファミリのアドバタイズがグローバルに有効になるまで、このコマンドは効果がありません。 **tgrepadvertise**

carrier キーワードを使用すると、トランクグループに定義されたキャリアが設定を引き継ぎます。複数のトランクグループに同じキャリアを定義できるため、同じキャリアが定義されているすべてのトランクグループに同じ構成が表示されます。 **notgrepadvertisecarrier** コマン

ドを使用して、このトランク グループの下にあるキャリアのグローバル キャリア設定に戻すと、同じキャリアが定義されているすべてのトランク グループに同じことが起こります。



(注) このコマンドは、global advertise (tgrep) コマンドを使用して広告に設定された属性をオーバーライドします。

例

次の例は、トランクグループ 101 が TGREP 広告を送信するように設定されており、この広告に通話成功率、利用可能回線数、総回線数、およびプレフィックス属性情報が含まれることを示しています。

```
Router(config)# trunk group 101
Router(config-dial-peer)# tgrep advertise csr ac tc carrier
```

関連コマンド

コマンド	description
advertise (tgrep)	指定されたアドレス ファミリのレポートをオンにします。
trunk group	トランク グループを定義し、トランク グループ設定モードに入ります。

tgrep local-itad

ゲートウェイで Telephony Gateway Registration Protocol (TGREP) を有効にし、TGREP 設定モードに入るには、グローバル設定モードで **tgreplocal-itad** コマンドを使用します。ゲートウェイ上の設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tgreplocal-itad[*Itad* 番号]

notgreplocal-itad[*Itad* 番号]

構文の説明	<i>itad</i> 番号 (オプション) ゲートウェイに関連付けられた IP テレフォニー管理ドメイン (ITAD) 番号。値の範囲は 1 ~ 4294967295 です。
-------	--

コマンドデフォルト ゲートウェイで TGREP が無効になっています。

コマンドモード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、ITAD 番号 1234 に対して TGREP を有効にする方法を示しています。

```
Router# enable
Router (config)# tgrep local-itad 1234
```

関連コマンド	コマンド	description
	address-family	すべてのダイヤルピアで使用されるグローバルアドレスファミリーを設定します。
	advertise(tgrep)	指定されたアドレスファミリーのレポートをオンにします。
	neighbor	別のデバイスとの TGREP セッションを作成します。

閾値ノイズ

着信通話のノイズしきい値を構成するには、`voice-port` 構成モードで、`thresholdnoise` コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`thresholdnoise`値

`nothresholdnoise`値

構文の説明

値	ノイズしきい値を確立する数値。有効な値は -30 ~ -90 デシベル (dB) です。既定は -62 デシベルです。
---	---

コマンド デフォルト

-62 デシベル

コマンド モード

Voice-port configuration

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(13b)	このコマンドは、Cisco 1700、Cisco 1751、Cisco 2600 (NM-HDA あり/なし)、Cisco 3600 (NM-HDA あり/なし)、Cisco 7200 (NM-HDA あり/なし)、Cisco AS5300、Cisco AS5800、および Cisco MC3810 の各プラットフォームで導入されました。
12.2(16)	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(16) に統合されました。

使用上のガイドライン

Cisco 音声アクティビティ検出 (VAD) には、アプリケーションプログラミング インターフェイス (API) 層と処理層の 2 つの層があります。処理層が入力信号を分類する状態は、音声、不明、無音の 3 つがあります。入力信号の状態は、ノイズしきい値によって決まります。

以前の Cisco IOS リリースでは、ノイズしきい値は -62 dB ~ -78 dB の間に固定されていました。音声レベルがノイズしきい値を下回る場合、信号は無音として分類されます。入力信号を分類できない場合は、VAD が収集した音声とノイズの統計情報に基づいて計算される可変しきい値を使用して判定が行われます。それでも信号を分類できない場合は、不明としてマークされます。最終的な決定は API によって行われます。hoot-n-holler などのアプリケーションでは、ノイズによって不要なスプリアス パケット (音声ストリームなど) が生成され、帯域幅が占有される可能性があります。

Cisco IOS リリース 12.2 (16) では、`threshold noise` コマンドを使用してノイズしきい値を設定できます。

例

次のサンプル構成では、ノイズしきい値レベルが -50 dB です。

```
voice-port 1/0/0
 threshold noise -50
```

タイムアウト（自動構成アプリケーション）

自動構成アプリケーションのダウンロードタイムアウト値を設定するには、自動構成アプリケーション設定モードで **timeout** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeout 秒単位の時間

no timeout

構文の説明

<i>time-in-seconds</i>	ダウンロードのタイムアウト値を秒単位で指定します。範囲は0～3600です。デフォルト値は180です。
------------------------	--

コマンドデフォルト

デフォルト値は180秒です。

コマンドモード

自動構成アプリケーション

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)XY	このコマンドは、通信メディアモジュールに導入されました。
12.3(14)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(14)T に統合されました。

使用上のガイドライン

値0は、ダウンロードの再試行を継続的に指定します。

例

次の例は、自動構成アプリケーションのダウンロードの継続的な再試行を指定するために使用される **timeout** コマンドを示しています。

```
Router(auto-config-app)# timeout 0
```

関連コマンド

コマンド	description
auto-config	SCCPアプリケーションの自動設定を有効にするか、自動設定アプリケーション設定モードに入ります。
show auto-config	自動設定アプリケーションの現在の状況を表示します。

timeout leg3

レッグ 3 AAA 事前認証要求のタイムアウト値を設定するには、AAA 事前認証設定モードで **timeoutleg3** コマンドを使用します。タイムアウト値をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeoutleg3 ミリ秒

no timeoutleg3 ミリ秒

構文の説明	ミリ秒	レッグ 3 事前認証のタイムアウト値 (ミリ秒)。範囲は 100 ~ 1000 です。デフォルト値は 100 です。
-------	-----	--

コマンド デフォルト 100 ミリ秒。

コマンド モード AAA 事前認証設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン AAA が事前認証要求に応答する前にタイムアウト タイマーが期限切れになった場合、通話は拒否されます。

レッグ 3 という用語は、IP ネットワークから PSTN ネットワークにトラフィックを送信する終端 (発信) ゲートウェイまでの IP ネットワークからの通話セグメントを指します。

例 次の例では、レッグ 3 AAA 事前認証要求のタイムアウトを 250 ミリ秒に設定します。

```
Router(config)# aaa preauth
Router(config-preauth)# timeout leg3 250
```

関連コマンド	コマンド	description
	aaapreauth	AAA 事前認証設定モードに入ります。

timeout ptt

音声パケットの送信または受信の最大時間を指定するには、音声ポート設定モードで **timeoutptt** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeoutptt {rcv | xmt}分

notimeoutptt {rcv | xmt}分

構文の説明	rcv	音声パケットの受信に指定された時間制限を適用します。
	xmt	音声パケットの送信に指定された時間制限を適用します。
	分	音声パケットの送信または受信に許可される最大時間（分）。範囲は1から30までの整数です。

コマンドデフォルト 分: 0分

コマンドモード Voice-port configuration

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
	12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン **timeoutptt** コマンドは、そのポートの信号タイプが Land Mobile Radio (LMR) である場合にのみ、E&M (耳と口) アナログまたはデジタル音声ポートで使用できます。このコマンドの目的は、拡張された無線送信を制限することです。このコマンドで設定された時間制限が過ぎると、無線送信機のキーが解除され、話し手が話し続けても、そのチャンネルのリスナーは話し手の音声を聴くことができなくなります。スピーカーがラジオのキーを解除すると、タイマーが再びアクティブになります。

例 次の例では、音声パケットの送信に最大 10 分を指定します。

```
voice-port 1/0/0
  timeout ptt xmt 10
```

タイムアウト tcrit

数字マップ マッチングで使用される数字間タイマーの重要なタイムアウト値 T(critical) を設定するには、MGCP プロファイル設定モードで **timeouttcrit** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttcrit *Tcrit* 値
notimeouttcrit

構文の説明	<i>tcrit</i> - 値	重大なタイムアウト値 T(critical) (秒単位)。値の範囲は 1 ~ 600 です。デフォルト値は 4 です。
コマンド デフォルト	4 秒	
コマンド モード	MGCP プロファイルの設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

桁間タイマーは、ディジットマップを照合する際に使用されます。ディジットマップとは、ネットワークのダイヤルプランに基づいて、ゲートウェイがバッファ内に収集すると想定される数字の数や種類を表したものです。桁間タイマーは、最初の数字が入力されたときに開始され、番号マップの一致または不一致が発生するまで、新しい数字が入力されるたびに再度開始されます。

桁間タイマーは、T (部分的) または T (クリティカル) の 2 つの値のいずれかになります。数字マップ内のいずれかのパターンと一致するために少なくとも 1 桁以上の数字が必要な場合は、タイマーに T(partial) の値が使用されます。数字マップに従って一致を生成するためにタイマーだけが必要な場合、タイマーには T(critical) が使用されます。

インターディジットタイマーをディジットマップなしで使用すると、値は T(critical) になります。すぐに開始され、数字が入力されるとすぐにキャンセルされます (再開されません)。

例

次の例では、T(critical) 値を 15 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tcrit 15
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcpprofile	1つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
timeoutpar	数字マップ マッチングで使用される数字間タイマーの MGCP 部分タイムアウト値 (T(partial)) を設定します。

タイムアウト tdinit

切断手順の初期待機遅延値 (Tdinit) を設定するには、MGCP プロファイル設定モードで **timeouttdinit** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttdinit Tdinit 値
no timeouttdinit

構文の説明

tdinit- 値	切断されたプロシージャの初期待機遅延 (Tdinit) (秒単位)。切断タイマーは、0 から Tdinit の間でランダムに選択された値に初期化されます。値の範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 15 です。
--------------	---

コマンド デフォルト

15 秒

コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイが、エンドポイントがコールエージェントとの通信を失った(切断された)ことを認識すると、切断タイマーと呼ばれるタイマーが、0 から切断初期待機遅延 (Tdinit) までの間の値にランダムで初期化されます。これは、**timeouttdinit** コマンドで構成されます。次に、ゲートウェイは、このタイマーの終了、コールエージェントからのコマンドの受信、またはオフフック遷移などのエンドポイントのローカルユーザアクティビティの検出の3つのいずれかを待機します。最初の2つのケースのいずれかが発生すると、ゲートウェイはそのエンドポイントに対して切断手順を開始します。3番目のケース、つまりローカルユーザアクティビティの検出では、最小待機遅延 (Tdmin) も経過している必要があります。この値は **timeouttdmin** コマンドで設定されます。

切断手順では、エンドポイントがコールエージェントに RestartInProgress (RSIP) メッセージを送信し、切断されたことと、現在接続を再確立しようとしていることを通知します。

切断手順が失敗し、エンドポイントがまだ切断されている場合、切断タイマーは2倍になります。このプロセスは、タイマー値が **timeouttdmax** コマンドで設定されている最大待機遅延 (Tdmax) に達するまで繰り返されます。

例

次の例では、初期待機遅延値 (Tdinit) を 25 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tdinit 25
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcpprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
timeoutdmax	MGCP 切断手順の最大タイムアウトを設定します。
timeoutdmin	MGCP 切断手順の最小タイムアウトを設定します。

タイムアウト tdmx

切断手順の最大タイムアウト値 (Tdmx) を設定するには、MGCP プロファイルコンフィギュレーションモードで **timeouttdmx** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttdmxTdmx 値
notimeouttdmx

構文の説明	<i>tdmx</i> -値	切断されたプロシージャの最大タイムアウト値 (Tdmx) (秒単位)。範囲は 300 ~ 600 です。デフォルト値は 600 です。
-------	----------------	---

コマンド デフォルト 600 秒

コマンド モード
MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイが、エンドポイントがコールエージェントとの通信を失った(切断された)ことを認識すると、切断タイマーと呼ばれるタイマーが、0 から切断初期待機遅延 (Tdinit) までの間の値にランダムで初期化されます。これは、**timeouttdinit** コマンドで構成されます。次に、ゲートウェイは、このタイマーの終了、コールエージェントからのコマンドの受信、またはオフフック遷移などのエンドポイントのローカルユーザアクティビティの検出の3つのいずれかを待機します。最初の2つのケースのいずれかが発生すると、ゲートウェイはそのエンドポイントに対して切断手順を開始します。3番目のケース、つまりローカルユーザアクティビティの検出では、最小待機遅延 (Tdmin) も経過している必要があります。この値は **timeouttdmin** コマンドで設定されます。

切断手順では、エンドポイントがコールエージェントに RestartInProgress (RSIP) メッセージを送信し、切断されたことと、現在接続を再確立しようとしていることを通知します。

切断手順が失敗し、エンドポイントがまだ切断されている場合、切断タイマーは2倍になります。このプロセスは、タイマー値が **timeouttdmx** コマンドで設定されている最大待機遅延 (Tdmx) に達するまで繰り返されます。

例

次の例では、最大タイムアウト値 (Tdmx) を 450 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tdmx 450
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcpprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
timeoutdinit	MGCP 切断手順の初期タイムアウトを設定します。
timeoutdmin	MGCP 切断手順の最小タイムアウトを設定します。

タイムアウト tadmin

切断手順の最小タイムアウト値 (Tadmin) を設定するには、MGCP プロファイルコンフィギュレーションモードで **timeouttadmin** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttadmin *Tadmin* 値
notimeouttadmin

構文の説明

<i>tadmin</i> - 値	切断手順の秒単位の最短タイムアウト (Tadmin)。範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 15 です。
----------------------	---

コマンド デフォルト

15 秒

コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイが、エンドポイントがコールエージェントとの通信を失った（切断された）ことを認識すると、切断タイマーと呼ばれるタイマーが、0 から、**timeouttdinit** コマンドで設定される切断初期待機遅延 (Tdinit) までのランダムな値に初期化されます。次に、ゲートウェイは、このタイマーの終了、コールエージェントからのコマンドの受信、またはオフフック遷移などのエンドポイントのローカルユーザアクティビティの検出の3つのいずれかを待機します。最初の2つのケースのいずれかが発生すると、ゲートウェイはそのエンドポイントに対して切断手順を開始します。3番目のケース、つまりローカルユーザアクティビティの検出では、最小待機遅延 (Tadmin) も経過している必要があります。この値は **timeouttadmin** コマンドで設定されます。

切断手順では、エンドポイントがコールエージェントに **RestartInProgress (RSIP)** メッセージを送信し、切断されたことと、現在接続を再確立しようとしていることを通知します。

切断手順が失敗し、エンドポイントがまだ切断されている場合、切断タイマーは2倍になります。このプロセスは、タイマー値が **timeouttmax** コマンドで設定されている最大待機遅延 (Tdmax) に達するまで繰り返されます。

例

次の例では、最小タイムアウト値 (Tadmin) を 20 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tadmin 20
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcpprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
timeouttdinit	MGCP 切断手順の初期タイムアウトを設定します。
timeouttdmax	MGCP 切断手順の最大タイムアウトを設定します。

timeout thist

パケットストレージタイムアウト値 (Thist) を構成するには、MGCP profile 構成モードで、**timeoutthist** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeoutthist*thist-value*
notimeoutthist

構文の説明	この- 値	パケットストレージのタイムアウト (Thist) (秒単位)。範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 30 です。
-------	----------	---

コマンド デフォルト 30 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

MGCP メッセージはユーザ データグラム プロトコル (UDP) 経由で送信されるため、パケット損失が発生する可能性があります。メッセージへの応答がすぐに受信されない場合、送信者はメッセージを再送信します。ゲートウェイは、Thist タイムアウト値の秒数の間、送信した応答のリストをメモリに保持します。ゲートウェイは、同じメッセージが複数回処理または確認されるのを防ぐために、トランザクション識別子とともに現在処理中のメッセージのリストを保持します。

例 次の例では、パケット保存タイムアウト値 (Thist) を 15 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout thist 15
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

コマンド	description
mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト トーン 話し中

ビジートーンのタイムアウト値を設定するには、MGCPプロファイル設定モードでコマンドを使用します。**timeouttonebusy** デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonebusy ビジートーン値
notimeouttonebusy

構文の説明	ビジー-トーン- 値	ビジートーンのタイムアウト（秒単位）。範囲は 1 ～ 600 です。デフォルト値は 30 です。
-------	---------------	--

コマンド デフォルト 30 秒

コマンド モード
 MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントがビジー トーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合に、ビジー トーン タイムアウト値を使用します。

例 次の例では、ビジー トーンのタイムアウト値を 45 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone busy 45
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト トーン cot1

継続性 1 (cot1) トーン タイムアウト値を設定するには、MGCP プロファイル コンフィギュレーション モードでコマンドを使用します。 **timeouttonecot1** デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonecot1*cot1* トーン値
no**timeouttonecot1**

構文の説明

<i>cot1</i> -トーン-値	Continuity1 (cot1) トーンのタイムアウト (秒)。 範囲は 1 ~ 600 です。 デフォルト値は 3 です。
--------------------	--

コマンド デフォルト

3 秒

コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントが cot1 トーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合、continuity1 (cot1) トーン タイムアウト値を使用します。

Continuity1 および continuity2 トーン信号は、通話を接続する前に通話パスが確立されていることを確認するために、Integrated Services Digital Networks User Part (ISUP) 通話で使用されます。コールエージェントは、特定のエンドポイントに適用するテストを認識するようにプロビジョニングされます。

例

次の例では、continuity1 トーンのタイムアウト値を 25 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone cot1 25
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

コマンド	description
mgcpprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
timeouttonecot2	MGCP の continuity2 トーンタイムアウト値を設定します。

タイムアウト トーン cot2

連続性 2 (cot2) トーン タイムアウト値を設定するには、MGCP プロファイル コンフィギュレーション モードでコマンドを使用します。 **timeouttonecot2** デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonecot2 cot2 トーン値
no timeouttonecot2

構文の説明

cot2-トーン-値	Continuity2 (cot2) トーンのタイムアウト (秒単位)。 範囲は 1 ~ 600 です。 デフォルト値は 3 です。
------------	--

コマンド デフォルト

3 秒

コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントが cot2 トーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合、continuity2 (cot2) トーン タイムアウト値を使用します。

Continuity1 および continuity2 トーン信号は、通話を接続する前に通話パスが確立されていることを確認するために、Integrated Services Digital Networks User Part (ISUP) 通話で使用されます。コールエージェントは、特定のエンドポイントに適用するテストを認識するようにプロビジョニングされます。

例

次の例では、continuity2 トーンのタイムアウト値を 50 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone cot2 50
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

コマンド	description
mgcprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
timeouttonecot1	MGCP の継続 1 トーンのタイムアウト値を設定します。

タイムアウトトーンダイヤル

ダイヤルトーンのタイムアウト値を設定するには、MGCP profile 構成モードで、**timeou tonedial** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeou tonedial ダイヤルトーン値
no timeou tonedial

構文の説明	ダイヤル-トーン-値	ダイヤルトーンのタイムアウト値（秒単位）。範囲は 1 ～ 600 です。デフォルト値は 16 です。
-------	------------	--

コマンド デフォルト 16 秒

コマンド モード
 MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されています。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントがダイヤルトーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合に、ダイヤルトーンタイムアウト値を使用します。

例

次の例では、ダイヤルトーンのタイムアウト値を 25 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone dial 25
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウトトーンダイヤルスタッター

スタッターダイヤルトーンのタイムアウト値を設定するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttonedialstutter** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonedialstutter スタッター値
no timeouttonedialstutter

構文の説明

スタッター値	スタッターダイヤルトーンのタイムアウト値(秒単位)。範囲は1～600です。デフォルト値は16です。
--------	---

コマンド デフォルト

16 秒

コマンド モード

MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントがスタッターダイヤルトーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合、スタッターダイヤルトーンタイムアウト値を使用します。

例

次の例では、スタッターダイヤルトーンのタイムアウト値を25秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone dial stutter 25
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト トーン mwi

メッセージ待ちインジケータトーンのタイムアウト値を設定するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttonemwi** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonemwi *mwi-tone-value*

notimeouttonemwi

構文の説明	<i>mwi</i> -トーン-値	メッセージ待機インジケータ (MWI) トーンのタイムアウト値 (秒単位)。範囲は 1 ~ 600 です。デフォルト値は 16 です。
-------	-------------------	---

コマンド デフォルト 16 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

コールエージェントがメッセージ待機インジケータ トーン信号の生成要求に対してタイムアウト値を提供しない場合、ゲートウェイは *mwi-tone-value* を使用します。

例 次の例では、メッセージ待機インジケータ トーンのタイムアウト値を 100 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone mwi 100
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

timeout tone network

ネットワーク輻轉トーンのタイムアウト値を設定するには、MGCP プロファイル設定モードで **timeouttonenetwork** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonenetwork {congestion | busy} トーン値
notimeouttonenetwork

構文の説明	congestion	ネットワーク輻轉によるタイムアウト。
	busy	ネットワークがビジーのためタイムアウトしました。
	トーン- 値	トーンのタイムアウト値（秒単位）。範囲は 1 ～ 600 です。デフォルト値は 180 です。

コマンド デフォルト 180 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。
	12.4(9)T	busy キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントがネットワークふくそうまたはネットワークビジートーン信号を生成するリクエストに関連付けられたタイムアウト値を指定しない場合に、トーンタイムアウト値を使用します。

例

次の例では、ネットワーク輻轉トーンのタイムアウト値を 240 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone network congestion 240
```

次の例では、ネットワーク ビジー タイムアウト値が 300 秒に設定されています。

```
Router(config)# mgcprofilesample
```

```
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone network busy 300
```

関連コマンド

コマンド	description
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcprofile	1つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

timeout tone reorder

リオーダートーンタイムアウト値を構成するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttonereorder** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttonereorder *reorder-tone-value*
notimeouttonereorder

構文の説明	<i>reorder-tone-value</i>	リオーダートーンのタイムアウト値(秒単位)。範囲は1～600です。デフォルト値は30です。
-------	---------------------------	---

コマンド デフォルト 30 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントがリオーダートーン信号を生成するリクエストに関連付けられたタイムアウト値を指定しない場合に、リオーダートーンタイムアウト値を使用します。

例 次の例では、リオーダートーンのタイムアウト値を 60 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone reorder 60
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcpprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト トーン リングバック

リングバック トーンのタイムアウト値を設定するには、MGCP プロファイル設定モードでコマンドを使用します。 **timeouttoneringback** デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttoneringback リングバック トーン値
no timeouttoneringback

構文の説明	リングバック-トーン-値	リングバック トーンのタイムアウト値 (秒単位)。 範囲は 1 ~ 600 です。 デフォルト値は 180 です。
-------	--------------	---

コマンド デフォルト 180 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コール エージェントがリングバック トーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合に、リングバック トーンタイムアウト値を使用します。

例

次の例では、リングバック トーンのタイムアウト値を 120 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringback 120
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

timeout tone ringback connection

接続時に呼び戻しトーンのタイムアウト値を構成するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttoneringbackconnection** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttoneringbackconnection 接続音値
no timeouttoneringbackconnection

構文の説明	<i>connect-tone-value</i> 接続時のリングバックトーンのタイムアウト値（秒単位）。範囲は1～600です。デフォルト値は180です。
-------	---

コマンド デフォルト 180 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントが接続時にリングバック トーン信号を生成する要求に関連付けられたタイムアウト値を提供しない場合に、この値を使用します。

例

次の例では、接続時のリングバック トーンのタイムアウト値を 120 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringback connection 120
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト トーン 呼び出し音

呼び出し音タイムアウト値を構成するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttoneringing** コマンドを使用します。既定値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttoneringing 着信音の値
no timeouttoneringing

構文の説明	呼び出し音-トーン- 値	着信音のタイムアウト値（秒単位）。範囲は 1 ～ 600 です。デフォルト値は 180 です。
-------	-----------------	---

コマンド デフォルト 180 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、コールエージェントが呼び出し音信号を生成するリクエストに関連付けられたタイムアウト値を指定しない場合に、呼び出し音タイムアウト値を使用します。

例

次の例では、着信音のタイムアウト値を 240 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringing 240
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト トーン呼び出し音 特徴的な

呼出音の鳴り分けタイムアウト値を構成するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttoneringingdistinctive** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttoneringingdistinctive*distinct-tone-value*
no**timeouttoneringingdistinctive**

構文の説明	<i>distinct-tone-value</i>	固有呼び出し音のタイムアウト値（秒単位）。範囲は1～600です。デフォルト値は180です。
-------	----------------------------	---

コマンド デフォルト 180 秒

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

コールエージェントが呼出音の鳴り分けの信号を生成するリクエストに関連するタイムアウト値を指定しない場合、ゲートウェイは、呼出音の鳴り分けタイムアウト値を使用します。

例 次の例では、呼出音の鳴り分けタイムアウト値を 240 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringing distinctive 240
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

タイムアウト tpar

ディジットマップ照合で使用される桁間タイマーの部分タイムアウト値 T(partial) を設定するには、MGCP profile 構成モードで、**timeouttpar** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeouttpar Tpar 値
notimeouttpar

構文の説明	<i>tpar</i> -値	部分的なタイムアウト値 T(partial) (秒単位)。範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 16 です。
コマンドデフォルト	16 秒	
コマンドモード	MGCP プロファイルの設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

桁間タイマーは、桁マップを一致させるときに使用されます。これは、最初の数字が入力されたときに開始され、数字マップの一致または不一致が発生するまで、新しい数字が入力されるたびに再開されます。

インターディジットタイマーは、T (部分的) または T (クリティカル) の 2 つの値のいずれかになります。数字マップ内のいずれかのパターンと一致するために少なくとも 1 桁以上の数字が必要な場合は、タイマーに T(partial) の値が使用されます。数字マップに従って一致を生成するためにタイマーだけがが必要な場合、タイマーには T(critical) が使用されます。

インターディジットタイマーをディジットマップなしで使用すると、値は T(critical) になります。すぐに開始され、数字が入力されるとすぐにキャンセルされます (再開されません)。

例

次の例では、部分的なタイムアウト値を 15 秒に設定します。

```
Router (config) # mgcp profile nyc-ca
Router (config-mgcp-profile) # timeout tpar 15
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcpprofile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。
	タイムアウト tcrit	ディジットマップ照合で使用される桁間タイマーに対して、MGCP クリティカルタイムアウト値 T(critical) を構成します。

タイムアウト tsmax

MGCP メッセージが再送信キューから削除されるまでの最大タイムアウト値を設定するには、MGCP プロファイル コンフィギュレーション モードで **timeoutsmax** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timeoutsmax *tsmax-value*

notimeoutsmax

構文の説明	<i>tsmax</i> - 値	MGCP メッセージが再送信キューから削除されるまでのタイムアウト値（秒）。範囲は 1 ～ 100 です。デフォルト値は 20 です。
-------	---------------------	---

コマンド デフォルト 20 秒

コマンド モード
MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの値を設定する際に使用されます。

ゲートウェイは、*tsmax-value* 引数を使用して、MGCP メッセージを再送信キューから削除するまでに保存する期間を決定します。

例

次の例では、MGCP メッセージの最大再送信のタイムアウト値を 45 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca
Router(config-mgcp-profile)# timeout tsmax 45
```

関連コマンド	コマンド	description
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
	mgcp profile	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。